日本クリスチャン・アシュラム連盟　春季号

開心
静聴
充満
献身
奉仕

日本アシュラム

Spring 1983　United Christian Ashrams of Japan　43

▼連盟は創始者の祈りによって各地に生れたファミリーの全国的な交わりであって、常に新しい家（一位）の参加を期待している。

奇蹟について

スタンレー・ジョーンズのひとり娘
ユニース・マシューズ夫人

私は今晩奇蹟についてお話したいと思います。父の遺書『神の然り』がどのようにして出来たかを通して、奇蹟について語りたいのです。

その前に、一言私の母について語らせていただきます。私の母は百才で亡くなった教育者でした。若い頃、宣教師として、また教師としてインドに赴任しました。印度のダフナで教師養成学校を開きたいと思っていた時、スタンレーに出会いました。彼女は生涯を教育のために捧げ、特に男子の教育に捧げた人でありました。

教育の仕事が終り隠退した後も教育のための募金に努め、凡そ千人の男子の教育に尽しました。彼女が亡くなった後、彼女が集めたお金は、教育資金として用いられ、その資金のために父スタンレーも彼の著書から得たお金をこれに捧げています。この資金はアメリカ、メソヂスト教会では、最も大きな資金となり、インドの教育のために使われることになりました。母は実に偉大な人でありましたが今は母について語る時を持ちません。偉大な人の背後には偉大な人がいるものです。

さて、ここで私は私の父スタンレーの遺著『神の然り』がどうして出来たかについてお話をしましょう。私の父は十年前に日本での最後の伝道の奉仕をした後、アメリカへ帰ってきてオクラホマでひどい脳卒中で倒れました。私は急いでボストンからオクラホマへ駈けつけました。その時父は私を見て次のように申しました『娘よ、私は今死ぬことは出来ない。私にはまだなすべき二つのことが残っている。一つはアシュラムを地についたしっかりしたものにしたいという願いである。第二はもう一冊の本を書かねばならぬということだ』と。少し病状が回復した後、私達は父をボストンへ連れて帰えりました。そこで父の様子を見ながら一台のテープレコーダーを用意しました。このレコーダーの装置はオンとオフだけで操作できるものでありました。折角口述したテープが消されてしまはないためです。彼の声は声帯も犯されていたので父にとってはテープに吹き込むことも大変苦痛でありました。然し父は強い意志でテープに吹き込んでいました。

最初父が吹き込んだテープを彼に聞かせた時、彼は『これは誰の声か』と聞きましたので『あなたの声ですよ』と言いますと、父は大変ショックを受けたようでしたが、更に努力して吹き込みを続けました。然しそれは彼にとって大変苦痛であるように見受けました。テープの吹き込み最中に色々な障害が生じました。それは医師や看護婦が彼の病床に出入りしたり、その他の人達が出入りしたことでした。

吹き込まれたテープを彼のよき協力者であったウエブスター女史がタイプに打ち込んでくれました。六ケ月後ボストンの医者達は、再び歩くことも、公けの場所で話すことも不可能であると申しました。父はこの医師を世界で一番立派な医者であるとほめた後で『然し私は歩きまた語る。然しここではそうしない。私を

編集人　海老沢宣道
発行人　大石嗣郎
定価　一部60円　〒60円